

それでも三月は、また

谷川俊太郎 多和田葉子 重松清 小川洋子 川上弘美 川上未映子
いしいしんじ J.D.マクラッチー 池澤夏樹 角田光代 古川日出男 明川哲也
バリー・ユアグロー 佐伯一麦 阿部和重 村上龍 デイヴィッド・ピース

日差しがだんだん春めいてきましたが、まだまだ寒い3月。
今月紹介するのは17名の作家・詩人が参加したアンソロジー。2011年3月11日
からもうすぐ11年。この本は2012年2月に日本、アメリカ、イギリスで同時刊行
されました。関西出身・在住の作家さんも参加されています。地震のこと、原発
のこと、作家の方々が捉えたあの日は、それぞれ違うものでした。なかでもこの
本の英訳版のタイトルになっている川上未映子さんの「三月の毛糸(March Was
Made of Yarn)」が印象的でした。著者初の短編集『愛の夢とか』収録作品です
が、アンソロジーの一部として読むと、またすこし違った味わいがあります。

11年前のあの日、わたしは友達とUSJにいました。大阪でも揺れを感じ、
アトラクションは中止になりました。Twitterを見て関東・東北で地震があっ
たことを知り、帰宅してからテレビで津波の映像を見ました。それまでも世界
各地での災害やテロなど、現実とは思えないような映像を見たことはありまし
たが、津波の勢いのすごさには圧倒されました。修学旅行で巡った東北はとて
もおだやかな土地で、あんなことになるなんて想像もしていませんでした。ど
の情報が正しいのか、どう行動するべきなのか、自分で選ばなければならない
状況。それぞれの場所でひとりひとり違った体験をし、どう感じたのか。スト
レスの受け方や向き合い方も違います。何年か経って、あの時のことが描かれ
た作品が増えてきました。震災当時、作家やアーティストは無力感を感じた方
も多かったそうです。それでも、形にしてくれたことによってすくわれること
もあるはずで、文学や音楽、映像作品はやはり必要だなぁ、と思いました。

コロナ禍の現在も毎日手探り状態です。2年経っても収束が見
えず、いつまで続くのかしら、と不安になりますが、当時休校
でみなさんに会えなかったことを思うと、まだがんばれそう
です。年度末まであと少し、できることをがんばりましょう